

富山市科学文化センター研究報告第28号(2005)に 掲載された論文の要旨

富山市科学文化センター

富山県立山美女平における訪花昆虫調査

根来 尚

立山美女平で、4月～10月の間に7日間、訪花昆虫調査を行った。その結果、7日3564個体の昆虫の訪花が確認された。内訳は、膜翅目1727個体、双翅目1029個体、甲虫目553個体、鱗翅目132個体、半翅目78個体、ハサミムシ目43個体、直翅目2個体であった。膜翅目の中ではハナバチ類(1428個体)、双翅目の中ではハナアブ類(551個体)が大部分を占めた。29科67種の植物への訪花が確認され、内キク科植物が15種で最も多かった。7月と9月に訪花個体数のピークが認められ、7月が953個体で最も多く9月は788個体である。(1-11pp.).

富山県で発見されたウミベワラジムシの1新種

布村 昇

下新川郡朝日町元屋敷の砂利海岸から発見されたウミベワラジムシの1種を新種 *Quelpartoniscus toyamaensis* (和名：トヤマウミベワラジムシ：新称)として記載した。本種は肌色で、目が小さく、腹尾節後端の形がほぼ直角であることによって区別されるが、附属肢にも、第1小顎外葉先端の歯の数が多く、雄第1腹肢内肢が太く、先端に小歯を持つこと、雄第2腹肢内肢が比較的短いこと、第1触角に多くの感覚毛を持つことなどの特徴がある。(13-16pp.).

富山湾の海上における鯨類の目撃記録

関東 雄・南部久男・山田 格・石川 創

1991～2003年にかけて、富山湾の海上において、49例のイルカ・クジラを確認した。そのうち4例はツチクジラの群、4例がカマイルカ、2例がハンドウイルカであった。ツチクジラは富山湾では6月と7月に、カマイルカは1～5月に来遊していることが判明した。(17-27pp.).

沖縄島那覇市漫湖干潟から発見されたアプセウデスの一種

布村 昇

沖縄県那覇市国場川河口の漫湖干潟から発見されたタナイス目の 1 種を新種 *Apseudes nasutus* (和名：ハナダカアプセウデス、新称) として記載した。わが国の既知種ニッポンアプセウデスとは頭部の中央部の突出部が丸いこと、目があること、触角先端の鞭数が少ないこと、尾肢の節数が少ないこと、胸部並びに腹部側縁が目立って突出しないこと、オスの鋏脚が大きく複雑な構造であることで区別される。(25-31pp.).

小笠原諸島産の海産ならびに海浜産等脚目甲殻類

布村 昇

1995 年 1 月に、国立科学博物館が行った小笠原諸島での等脚目甲殻類の調査品を中心にして科学文化センター収蔵品を調査した。海産種 17 種、海浜棲陸産種 8 種の計 25 種を確認したが、有扇亜目コツブムシ科の 1 種が未記載であることが判明し、新種 *Gnorimosphaeroma albicauda* (和名：オジロイソコツブムシ：新称) として記載した。(33-57pp.).

サラワクで発見されたコシビロダンゴムシの 1 新種

布村 昇

サラワクから発見されたコシビロダンゴムシの 1 種を新種 *Spherillo tsukamotoi* として記載した。本種は胸肢の剛毛が単純で、二叉したものがないこと、オス第 1 腹肢外肢が細いこと、目が小さく、目を構成する個眼が少ないこと、大顎の臼歯状突起が剛毛状ではなく房状であること、頭部前縁がまっすぐなこと、第 1 触角の剛毛の数が多いこと等が特徴である。(59-62pp.).

南極ブライド湾ならびにリュッツホルム湾から JARE26 航海において採集された海産等脚目甲殻類

布村 昇

極地研究所が行った南極昭和基地付近のブライド湾ならびにリュッツホルム湾の調査 (JARE-26) の際に採集された等脚目甲殻類の研究し、6 科 8 種を確認した。うち、セロリス科で、硬い甲被をもち、腹尾節後端が凹む等の特徴ある種を新種 *Serolis hoshiaii*

として記載した。またオニナナフシ科の1種を新種 *Antarcturus breidensis* として記載した。(63-80pp.).

関東地方の *Pinus parviflora* の地理的変異 佐藤 卓

佐藤 卓・藤平量郎

ゴヨウマツは北方タイプのキタゴヨウと南方タイプのヒメコマツに分けられてきた。しかし、2つのグループに分けることはできないことが針葉の形質から明らかになった。(81-89pp.).

短報 富山湾における鯨類の記録 (2004年)

南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田 格・田中 豊・大田希生

2004年に富山湾で次ぎの3種のイルカ類を確認した。1.カマイルカ(4月11日、魚津市片貝川河沖から経田の間で群を確認) 2. ハナゴンドウ(6月15日、黒部市荒俣の海岸で体長252cmのオスの死体漂着) 3. ハセイルカ?(5月30日、黒部市立野の海岸で体長約224cmのオスの死体漂着)。(91-94pp.).

短報 富山県初記録のアオタテハモドキ

二橋 亮

国内では南西諸島に生息するアオタテハモドキが、氷見市宮田でオス1個体が採集された。近県では石川県で2例、新潟県で1例の採集記録があるが、富山県からははじめての記録となる。これで富山県の蝶類の記録は、126種となった。(95p.).

資料 富山県のトンボ

二橋 亮・二橋弘之

2004年、富山県内で164日間のトンボ類調査の結果、富山県から記録のある86種のうち76種が記録できた。2004年は、記録的な猛暑、渇水、台風の影響があり、トンボ類は例年に比べて全般的に個体数が少なかった。オツネトンボ、キイロサナエ、オジロサナエ、アオサナエの4種は、意識的に調査したにもかかわらず確認できなかった。特記すべき点は、ハラビロトンボが県内各地で確認されたことと、遠方からの飛来種であるスナアカネが、県内3市町で記録されたことである。(97-107pp.).